大麦特報（第３号）

令　和　６　年　２　月
なのはな農業協同組合
富山農林振興センター

一部で湿害による生育不良のほ場がみられます。ほ場を確認し、停滞水がみられる場合は排水対策を徹底し、根域をしっかり確保しましょう。
分施体系で栽培している場合は、大麦の生育回復と穂数確保のため、遅れずに追肥を行いましょう。

１．排水溝の点検・手直し

ほ場内に水が停滞すると、**湿害により根の伸長が阻害されるため、生育不良になり、出穂後の登熟も悪く**なります。

ほ場内の停滞水を速やかに排除するため、**排水溝の手直しや深く掘り下げた排水口へ連結を徹底**しましょう。

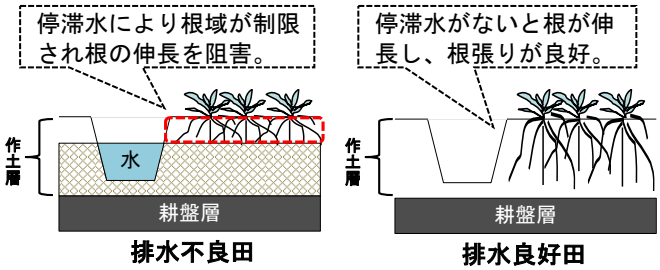
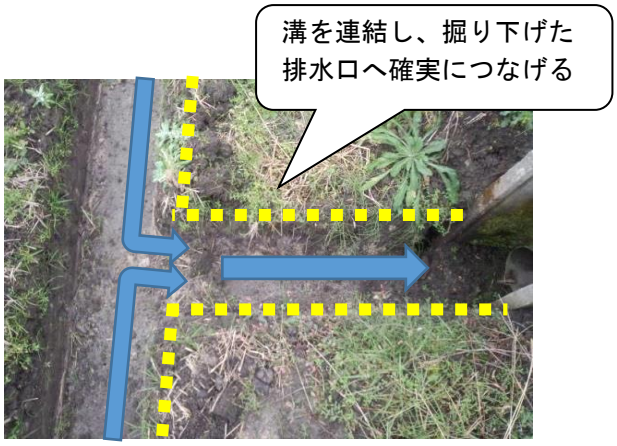


図　排水の良否と根の伸長のイメージ



２．消雪後の追肥（分施体系のみ）

冬期間に消耗した大麦の生育を回復させ、適正な茎数、穂数を確保するため、追肥は遅れずに施用しましょう。

時　期	３月上旬　（消雪後、速やかに）
施用量	硫　安　20 kg/10ａ

※条間の土が見えないような茎数が多いほ場は、施用量を減らしましょう。

※肥効調節型肥料（Ｊコート大麦48号）を施用したほ場では、原則として追肥の必要はありません。（排水溝を手直ししても極端に葉色が淡い場合は、農協や農林振興センターにご相談ください。）